

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100324		
法人名	特定非営利活動法人 しあわせサービス		
事業所名	グループホーム ゆめの丘		
所在地	島根県松江市美保関町北浦624-1		
自己評価作成日	平成28年3月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3290100324-00&amp;PrefCd=32&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3290100324-00&amp;PrefCd=32&amp;VersionCd=</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	平成28年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた立地条件を活かし、年間行事等で季節感や生活感を感じて頂けるよう支援しています。また行事を通して地域交流を図れるよう支援しています。  
(春の桜の花見、夏場の地元での海開き参加・施設での地域の方も招いたそうめん流し、秋のいも煮会や地域の保育園児を招いた敬老会、年末のそば打ち・餅つき・しめ縄作り、年始の地域の保育園でのお茶会等)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺を山に囲まれた静かな場所に立っているホームです。地域との付き合いを大切にされており、様々な機会を通して交流を図っておられます。  
理事長・管理者・職員はグループホームの理念を念頭に人としての尊厳を大事にし家庭的な支援を心掛けておられます。職員が明るく働いており利用者も安心して自分のペースを保ちながら共同生活をしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、毎日朝礼時に唱和し、職員全体で共有実践につなげている。特に尊厳については、虐待防止への研修・ミーティングでの話し合いを行っている	施設内に理念が掲示されており、朝礼時に唱和されている。特に人間の尊厳を大切にするという部分については研修会やミーティングなど様々な場面で話し合う機会を持ち共通認識を持って日々の実践につなげられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年の海開きでの地曳網への参加、西保育所園児との交流、そうめん流しでの地区の小学生及び保護者参加など地域との交流を図っている。	地域の行事への参加や保育園児との交流、中学校の福祉体験職場体験の受け入れやボランティア、ホームのそうめん流しに小学生や保護者が参加するなど交流は多岐にわたる。また、日頃から近所の方やご家族、親戚が面会時に収穫した季節の農作物を差し入れるなど日常的な交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記行事への参加や民生委員・自治会等を通じて認知症の方の理解を深めて頂くよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、開催し、利用者様の状況報告等を行い、委員の意見等を施設の運営やサービス向上に活かしている。	2か月に1回開催されている。自治会民生委員など地域の方や松江市介護保険課職員、地域包括センター職員が出席、現状報告や事業、行事報告を行う。民生委員さんから地域行事の紹介を頂いたり、ご意見を頂くことでサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員や地域包括支援センター職員に運営推進会議に参加して頂き、連絡・話し合いに努めている。	運営推進会議に松江市介護保険課職員や地域包括支援センター職員に参加頂き、活動状況の報告を行い協力関係を密にするよう努めている。空き状況などを報告することで包括より待機者の情報、紹介を頂くこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、自由に出入りが出来るようにしている。施設内研修・外部研修を行い、身体拘束をしないケアの理解を深め、実践につなげている。	施設内研修、外部研修を受講し、スピーチロックも含め身体拘束をしないケアについて日々理解を深めるようにされている。スピーチロックについては場面場面で注意を促し、職員全体が理解してケアに取り組めるようにされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修において虐待防止関連法について学び、虐待が見過ごされることがないように注意し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修にて学び、必要に応じて関係者と話し合いや相談に応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者様・家族様に十分説明を行い、理解・納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営推進会議の意見・家族面会の際の要望などを運営に反映させている。	意見箱の設置、家族の方が運営推進会議の参加された時や面会に来られた際、ケアプラン見直し時などに直接ご意見を確認している。遠方の家族には電話やメール、ゆめゆめ通信の発送以外に個別のお手紙を送り意見や要望を聞くよう心掛けられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで集約した意見、要望等を運営に反映させるよう努めている。	月1回の職員会議やミーティングなどでケアについてなど話し合い、意見や要望を反映させるよう努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準の引き上げ・時間外労働の抑制等を図り、職場環境・条件の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常の業務を通して介護技術の向上や法人内外の研修に参加している。パート職員には正職員への登用制度も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加し介護現場の職員同志が情報交換を行い、サービスの質を向上させていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	丁寧に傾聴しながらご本人が安心出来るような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聴き、丁寧に説明を心がけ施設を信頼して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態を見極め、それを踏まえてご家族の要望をお聞きし、適切な支援内容を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームで共に生活する者同士として、積極的に声かけを行い、利用者のペースに合わせた生活を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方に毎月、機関誌を送付し、利用者の様子を伝え、必要に応じて、面会を促すなど、本人を施設と共に支えていく関係づくりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の話を伺い、馴染みの関係の支援に努めている。	ご家族や親戚、ご近所の方が面会に来られたり、ご家族と一緒に外出し、家を見に行ったり、墓参りに行ったり、親戚の葬儀出席するなど人や場所との関係性が途切れないようにされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設で孤立される方がいないよう日々の生活を通して、利用者の動向に常に気を配り、利用者同士の良好な関わり合いの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があった時には、誠意をもって対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやご家族からの情報、日々の関わりの中から思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	日々の関わりの中で言葉や表情から希望や意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な場合は家族に確認し情報を得るようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前のサービス内容、生活歴等について、ご本人、ご家族、事業所から情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前の生活と現在の暮らしを比較検討し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・職員の意見を踏まえ、ご本人の意思を尊重し、ご本人らしい生活を送って頂くように計画を作成している。	月1回のモニタリングを行い、半年毎に評価見直しをされている。日々の関わりから思いや希望をくみ取り、その人らしい生活が営めるような介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録内容を職員間で情報共有し、話し合いながら日常の介護や介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状を見極め、課題が生じたらその都度カンファレンスを行い、支援内容を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交流事業、外出支援等を通じて、地域資源を把握し、日々の暮らしに役立っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は希望とし、事業所と連携を密にし、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医になっている。受診は基本的には家族が同行するが、必要に応じて職員が付き添い日々の様子を伝えるなど支援している。協力医は佐々木医院で月1回の往診をされる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の情報を常に把握し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう適宜、看護職に相談、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に医療機関へ情報を提供し、安心して治療を受けられるよう医療機関の相談員等や家族との連絡を密にし、よりよいケアにつながるよう努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から重度化などについて、家族等と話し合い、今後の方針を一緒に考えている。	入所時に看取りまでは行っていない事を説明し、状態が変化した時は早い段階から家族と話し合い、今後の方針を一緒に考えることで、事業所が対応できる最良のケアを提供されるようにしておられる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署の指導のもと救急救命講習を受講し、初期対応の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害、地震等の発生時の避難訓練を通じて、職員の危機管理意識の向上を図っている。	年2回の避難訓練を行っている。備蓄準備されている。また、原発事故想定避難計画もある。	今後は地域の協力体制について運営推進会議で話し合いを持たれると良いでしょう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、人格を尊重し、一人ひとりに丁寧な対応を心がけている。	人としての尊厳を大切にすることを理念にも掲げられており、利用者に対して年長者として敬意を払い、援助が必要な場合もさりげない言葉かけや対応に配慮されている。排泄や入浴など羞恥心を伴う場面では希望があれば同性介助に対応される。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を聞き、自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者様のペースに合わせ、日々の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい見出しなみができるよう服装やお化粧品等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや米ときなど一人ひとりの力を活かしながら職員と一緒に準備や食事、片づけを行っている。	季節の農作物の差し入れがあるとメニューを一部変えて提供することがある。訪問した日も頂き物のふきの下処理を職員と利用者で一緒にされ、昼食のおかずにていた。職員や利用者同士会話も弾みにぎやかに食事を楽しんでおられた。家族と一緒に外食を楽しまれたり、ソバ打ちや行事食、そうめん流しなど食を通じて地域と交流できる行事も多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養は、栄養士により管理しバランスのとれた食事を提供を心掛けている。水分が摂れない方は好みの物を提供している。食事形態もその方の状態に合わせて無理なく摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを毎食後、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中、夜間ともトイレ誘導を行い、トイレで排泄が出来るよう自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表でパターンを把握しトイレ誘導を行い、自立支援を行っている。日頃おむつ使用の方もトイレでの排便を行うようにされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内を散歩して頂いたり、レクリエーションで体を動かし、食事面では牛乳、水分摂取などで個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人に声がけを行い、入浴されない場合は時間を置いて再度声かけをしたり、日にちを変えたり、入浴が楽しめるよう個々に応じた入浴の支援を行っている。	週2回の入浴支援を行っている。拒否のある方は時間や日を改めたり、声かけをかえるなどし対応されている。現在対象者はいないが個浴型介護浴槽浴室も設備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時は、事務所で過ごして頂いたり、一人ひとりのその時の状況に応じて安心して眠れる様支援をしている。照明もその人の気分に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬、目的、副作用、用法、用量について、職員全員で情報を共有し、症状の観察にも努め、症状の変化が見られれば主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食事の下準備などその方に応じた役割をもって頂いている。行事、レクリエーション、買い物などで日々の気分転換等支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩、買い物、花見など外出支援をしている。また、家族様のご協力により外出される方もある。	施設周辺の散歩や外気浴を日常的に行っている。また道の駅での買い物やチェリーロードの花見など外出支援を行なわれている。また、家族と一緒に外出される方もおられる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じお金を所持しておられる。外出や買い物の際は、自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に自ら電話したり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の応じた花や飾りつけ等、居心地良いと思っけるような空間づくりに努めている。	季節に応じた花や飾り付けがされている。訪問日は雛人形が飾られ、テーブルにも春の花が飾ってあった。掃除も行き届いており、採光や温度調整もしてあり居心地のいい空間作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、談話室で利用者様同士で過ごし、親しい方同志では居室への相互訪問もされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物の持ち込みを勧めている。思い出の写真を飾って頂くなど、ご本人が落ち着いて過ごされるよう支援している。	ベッドとたんすが備え付けられているがそれ以外に使い慣れたたんすやテレビを持ちこまれたり、写真が飾られている。ものの配置も本人も好みに合わせ居心地良く過ごせるよう工夫されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋建てで、施設内部の手すりにつかまりながらの自立歩行を行いやすくしている。居室のトイレは夜間の安全自立に役立つ。		